

2007年8月に発生した房総沖スロースリップと群発地震活動

— (その2) スロースリップ活動 —

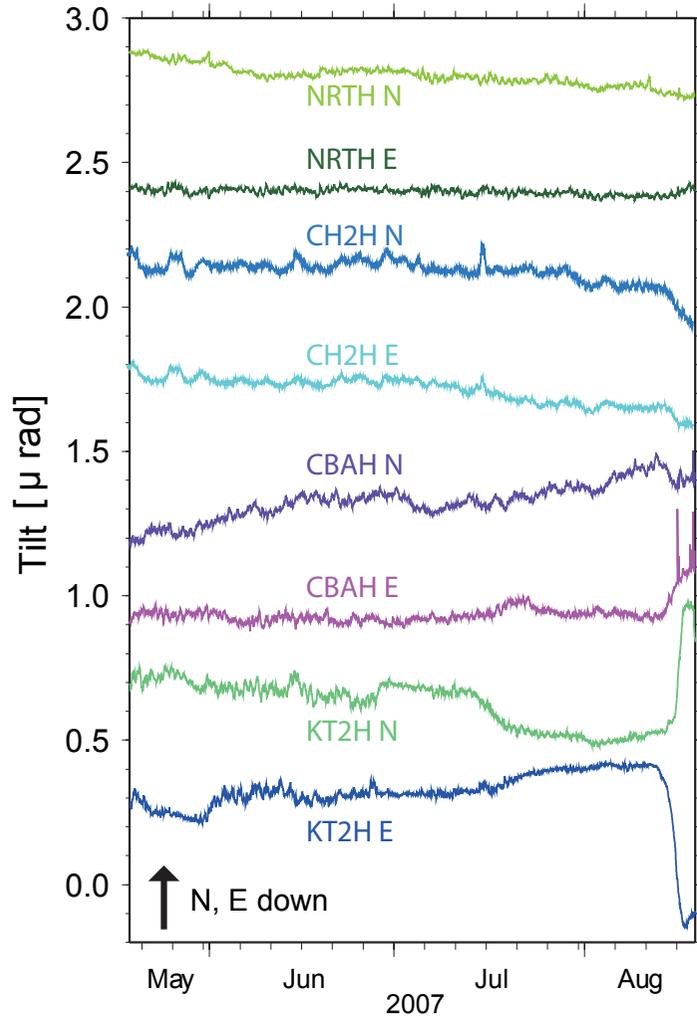


図1：2007年5月19日から8月19日までの3ヶ月間における、成田(NRTH)、銚子中(CH2H)、千葉(CBAH)、勝浦東(KT2H)の傾斜時系列。観測点の位置は図3に示す。記録は、上方向が北・東下がりであり、潮汐成分およびリニアトレンド除去後の記録を示している。

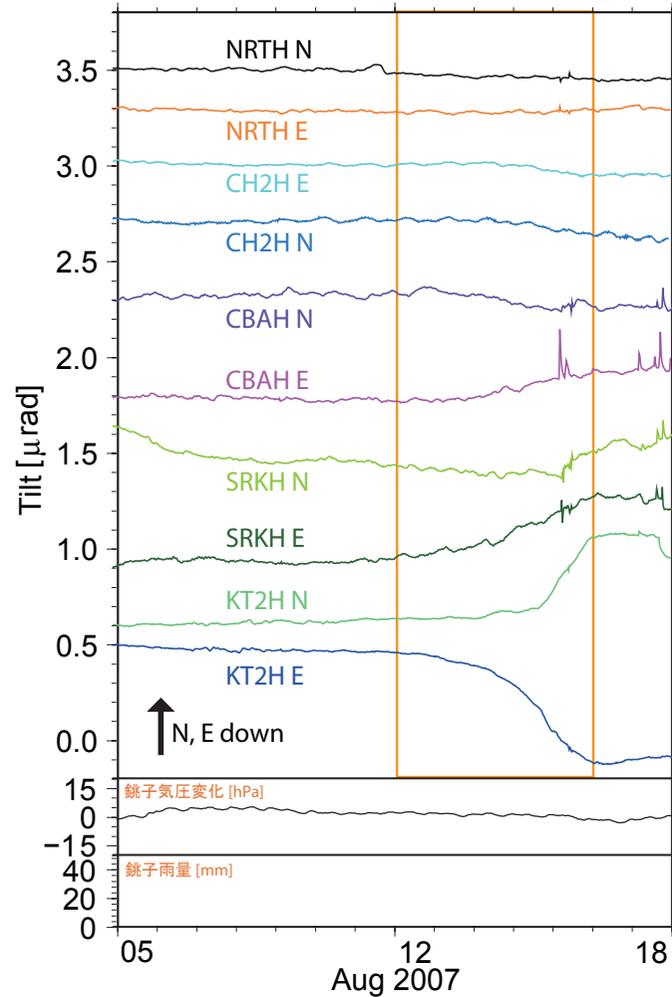


図2：2007年8月5日から19日までの2週間における傾斜時系列。観測点は、図1で示したものに白子(SRKH)を加えた。橙色で示した期間の前後における傾斜変化の差をデータとして断層モデルを推定した。この期間における気象庁銚子観測点の気圧変化および雨量をあわせて示す。

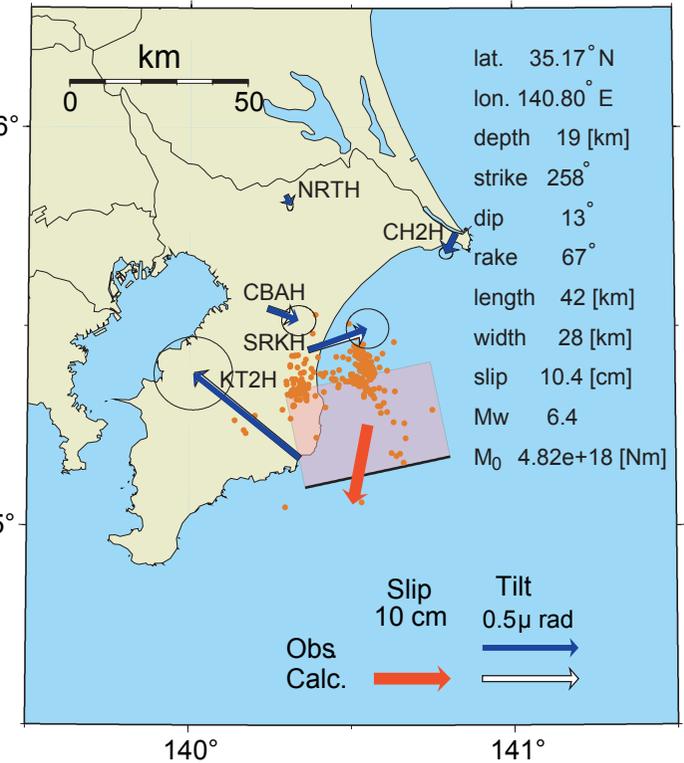


図3：スロースリップイベントの断層モデル。断層面の形状を赤矩形で、すべりベクトルを赤矢印で示す。観測された傾斜変化ベクトル、モデルから計算される傾斜変化ベクトルを青矢印及び白抜き矢印で示す。橙色は、同期間の群発地震活動の震央位置を示している。

謝辞：気象庁のWEB上に公開されている気象データを使用させていただきました。